

鶴居村における

第四胃変位予防の取り組み

鶴居診療所では四変の発生率は5%（平成24～25年度）と、目標とすべき4%以下に比べ高めで

す。今回、発生率低減のため、J A 釧路丹頂、酪農学園大学の協力を得て、鶴居地区26農場を対象に分娩前後の血液データ、牛体の状況、飼料給与メニューが四変の発生どう関与しているか調査しました。以下に概要を報告します。なお、初産の四変頭数が一部含まれており、初産の頭数を除いた値も、被害率は大きく変わりませんでした。

四変の発生と周産期疾病の発生は関連あり

四変多発農場では、分娩から60日以内に死産になる牛が多い傾向にあります。四変は周産期疾病に続いて起こるケースが多く、ま

ずは予防が大切です。また、分娩後60日以内の死産の目標は全経産牛の6%以下です。

乾乳牛のボディコンディション（BCS）が高めの農場は四変が発生しやすい

乾乳期において、四変多発農場では少発農場に比べBCSが高い傾向にありました。

過肥牛は、分娩前後の食いどまりが大きく、疾病が増加します。過肥を予防するには適期受胎や乾乳前泌乳後期に過肥にさせないことが必要です。

クロースアップ期の栄養不足は四変のリスクを高める

四変多発農場では、クロースアップ期に粗飼料給与割合が高い（全メニューに占める粗飼料割合

が70%以上）傾向にありました。粗飼料割合が高いということは、濃厚飼料割合が少なく、蛋白不足、エネルギー不足になる可能性があります。

クロースアップ期は、胎子が急激に大きくなり母牛の食欲が低下するため、この時期に十分な栄養供給ができるかが分娩後の健康状態を左右します。

血液検査ではエネルギー不足が明らかに

乾乳期、四変多発農場で血糖値が低い傾向にあり、泌乳初期、四変多発農場でNEFA（遊離脂肪酸）が高い傾向にありました。NEFAは体に蓄えている脂肪を消費すると上昇します。つまり、乾乳期に食い込めていないため、エネルギー不足に陥っていること

が明らかになりました。

また、乾乳、泌乳初期とも四変多発農場でケトン体が高い傾向にありました。これも、分娩後、四変多発農場では、食い止まりが起こっていることを示しています。十分に採食出来る環境や飼料を準備する必要があります。



四変部会から

ストレスを与えない環境整備が必要

四変多発農場では、分娩房の割合が少ない傾向にありました。繋いだ状態で分娩させない工夫が必要です。

分娩牛を乾乳牛舎から移動するといった環境変化も、牛にとってはストレスとなります。調査の結果、四変多発農場では、分娩房への移動が遅れている傾向にありました。分娩に向けて馴致期間を十分にとる必要があります。

また、四変多発農場では、慣らし給与がなされていない農場が多い傾向にありました。過密を防ぎ清潔な環境や十分な飼料を準備し、分娩後食い込めるように乾乳後期に慣らし給与を行う必要があります。

調査結果から、鶴居診療所では調査した農家の四変発生割合、飼料分析、血液性状、死産割合、BCSを点数化し、各農家の状況を

を下図のようにグラフ化しました。現在、このグラフを元に四変の発生率を低減出来るように各農家個々の状況に応じた対策を話し合っています。今後、さらにデータを精査して組合員の皆さんに有効に利用していただけるよう取り組んでいきたいと思えます。

鶴居家畜診療所 今井 一博

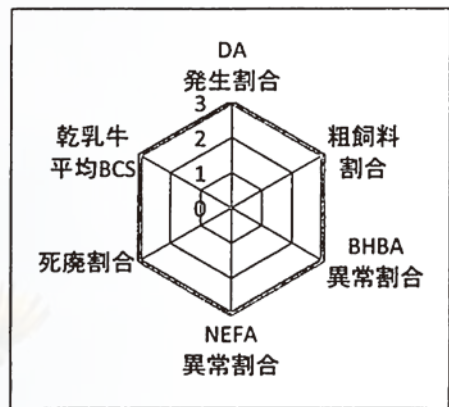


総合評価

項目	得点 [※]
DA発生割合	3
粗飼料割合	3
BHBA異常割合	3
NEFA異常割合	3
死産割合	3
乾乳牛平均BCS	3

※得点の概要

1=要検討 2=標準 3=良好



総合評価

項目	得点 [※]
DA発生割合	1
粗飼料割合	2
BHBA異常割合	2
NEFA異常割合	3
死産割合	1
乾乳牛平均BCS	1

※得点の概要

1=要検討 2=標準 3=良好

